

出雲地区

# 保護司会だより

## 第20号

### 「薬物乱用のない社会を目指して」

出雲警察署長 河村 英夫



出雲地区  
保護司会の  
皆様には、  
平素から青  
少年の非行

防止活動、地域での犯罪予防、さらには再犯防止の取組みなどでご尽力を頂き、心からお礼を申し上げます。

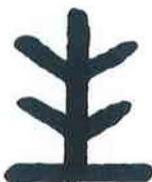
出雲市内の治安情勢でございますが、刑法犯の認知件数は減少傾向で、比較的平穩に推移しております。しかし、市内では、自転車盗や高齢者の方が被害に遭われます振り込め詐欺など、市民の皆様の身近なところで発生する犯罪が増加しており、統計上は犯罪が減少しておりますが、市民の皆様が肌で感じられる「体感治安」についてはまだまだ改善の余地がある状況でございます。発生しました犯罪の解決はもとより防犯対策にも尽力して参りますので、引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

さて、薬物事犯についてご説明いたします。覚醒剤、大麻、MDMAなどは習慣性があり、中枢神経系の興奮、抑制、幻覚の作用を有する物としてその取扱いが法令により禁止または制限されています。覚醒剤などの乱用は、「依存性」が形成され、薬物を繰り返して使用しているうちに同じ量では効かなくなる「耐性」が生じ、幻覚や妄想といった症状を引き起こすなど、乱用者自身の精神と身体への弊害が指摘されています。このほか、薬物乱用により、殺人などの凶悪犯罪や重大な交通事故を引き起こすなど、乱用者本人のみならず、周囲の人、さらには社会全体に悪影響を及ぼす弊害もあります。

また最近では、インターネット、宅配便を利用した薬物の密売事犯が増加し、一般市民、特に若年層への薬物汚染の拡散が懸念されます。さらに、「合法ハーブ」「お香」「アロマ」などと称して販売されている物には、法律で規制されている麻薬や指定薬物の成分が含まれているものがあり、使用者が、意識障害等で救急搬送される事案も発生しております。薬物乱用のない社会を目指して、皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

今年もあと少しで暮れようとしておりますが、警察では現在、歳末特別警戒を実施中でございます。市民の皆様が安全に新年をお迎えになりますよう取り組んでおりますのでよろしくお願いいたします。

終わりに、出雲地区保護司会の皆様、本会報の読者の皆様、清々しく希望に満ちた新年をお迎えになりますよう心から祈念申し上げます。巻頭のあいさつといたします。ありがとうございます。



人はみな、  
生かされて  
生きてゆく。

(更生保護のシンボルマーク)

## 平成25年度 「社会を明るくする運動」 標語及び作文入選作品の紹介

出雲地区保護司会では「犯罪のない明るい街づくり」「青少年の非行防止」をアピールする標語を、一般の部、小・中学生の部（出雲市青少年育成市民会議との共催）として募集しました。一般は104点、小学生は709点、中学生は59点の応募がありました。

また、島根県社会を明るくする運動推進委員会が行った作文コンテストに協力し、小・中学校に参加を呼びかけたところ、小学生から183点、中学生から31点の応募がありました。

当保護司会で慎重に審査した結果、次のとおり決定しました。たくさんの応募をありがとうございました。

### 一般の部

#### 最優秀賞

#### 立直り

見守り支える 地域のチカラ  
大津町 石橋 律子

#### 優秀賞

#### あいさつを

かわせば 心に灯がともる  
佐田町 竹下 恵子

#### やりなおす

君を支える 皆がいる  
斐川町 錦織 博子

#### 人の子も

わが子と思い 注ぐ愛  
神西沖町 今岡 忠輔

#### 更生の

「決め手」自立へ 雇用の場  
天神町 高橋 岩子

#### 親と子の

対話の家族に 非行なし  
芦渡町 石橋 厚

#### 佳作

次世代を 見つめて築く 明るい社会  
湖陵町 打田 薫

#### 勇気だし

悪いことだと 友に言う  
高岡町 古割 淳一

#### ありがとう

君のえがおに 救われる  
斐川町 大森 咲希

#### 子は宝

家庭と社会が 守り役  
小伊津町 土江 佳子

#### 両親の

笑顔が一番 非行なし  
美野町 間瀬 慧子

#### もう一度

その芽をのばせ やさしい社会  
大社町 伊野木 正

#### 思いやり

交わす言葉に そとと乗せ  
斐川町 足立 恵子

#### 君がいる

だからぼくも がんばれる  
斐川町 大森 淳平

#### 愛される

気持ちに伝える 更生の路  
上塩治町 石川みどり

#### 助け合う

こころ一つで 明るい未来  
佐田町 井山 暁人

小学生の部

最優秀賞

ありがとう

みんなに広がる 笑顔の輪

莊原小学校 六年 木次菜々花

優秀賞

気づこうよ

相手がいやがる その気持ち

灘分小学校 五年 小澤 泰知

思いやり

いじめ防止の 第一歩

出東小学校 六年 錦織 悠太

優良賞

あいさつで

心のとびら ひらこうよ

大津小学校 四年 西岡 怜奈

なかよしの

はじめの一步は あいさつで

大津小学校 四年 川村 舞

だいじょうぶ?

あなたの一言 うれしいな

神戸川小学校 六年 高見 舞保

だめだよと

言えるゆうきが もちたいな

高浜小学校 二年 安田 旭

信じ合う

大きな心が 笑顔うむ

高浜小学校 五年 脇坂 ひな

声かけあって

絆深まる 地域の輪

灘分小学校 一年 松浦 真由

「ありがとう」

その一言に また感謝

灘分小学校 五年 岡 玲碧

悪いこと

注意しあって 犯罪なくす

灘分小学校 五年 下古谷桐弥

さしのべる

手と手で広がる 友達の輪

荒木小学校 四年 神田 祈星

あやまろう

思ったときに すぐ行動

荒木小学校 六年 神田 成美

中学生の部

最優秀賞

変えるなら

他人よりもまず 自分から

第二中学校 三年 新宮陽南子

優秀賞

見ないふり

何で君は とめないの?

第二中学校 三年 公田 悠樹

思いやる

心が育てる 明るい社会

浜山中学校 一年 紹慶 千夏

優良賞

ありがとう

その一言が おまじない

第二中学校 一年 岡 沙彩

思いやりと

笑顔が周りを 変えていく

第二中学校 一年 妹尾 真衣

ポイ捨ては

一つ一つが 地球の涙に

第二中学校 一年 渡部壮一郎

悪口は

相手の心を こわす武器

第二中学校 二年 原 光

大丈夫?

その一言が オアシスに

第二中学校 三年 吾郷亜希乃

私から

始めていこう いじめゼロ

第二中学校 三年 内藤 早咲

考えて

友へことは 相手の気持ち

第二中学校 三年 森山 大嗣

広げよう

あいさつの輪を 自分から

第二中学校 三年 伊達 圭祐

考えて

自分の事で 悲しむ人を

浜山中学校 一年 高本 俊

本当はわかってる

やって良いこと悪いこと

光中学校 三年 高橋 聡利

作文  
コンテスト

## 第六十三回 社会を明るくする運動

最優秀賞 島根県推進委員会委員長賞

## 変えてやろうという決意

出雲市立多伎中学校 三年 森 脇 達 希

最近私は、広島県呉市で起きた死体遺棄事件のニュースを見ました。

SNS内でのトラブルが原因で、事件に発展したと報道されています。

逮捕された少女は十六歳。私と変わらない年齢です。その人は、自分の行動によって、相手やその家族、それだけでなく自分の家族までもがどんな気持ちになるのか考えたのでしょうか。事件の真相は分かりませんが、ニュースによると、加害者と被害者の間に、意見の相違があったようです。人間同士なら意見の食い違いは当たり前のことだと思えます。しかし、それで相手の命を奪うとは、あまりに飛躍していると思います。私はこのような出来事がおこってしまうことに、悲しみと不安を感じました。そして、この社会を変えてやろうと強く思いました。

た。

私は、小学校まで松江市に住んでいました。最初は「自分はよそ者」という感覚がありました。しかし、同級生や、地域の方は優しく接してくれて、馴染むことができました。一方で、戸惑うことも出てきました。それは、この町の人の過去の話を、私にされることでした。もちろんいい話を聞くこともありましたが、悪い噂話を聞くことも多かったです。そして、その噂話の最後には、「○○らしい」という言葉がきます。不確かな情報が、更に形を変え、人々に広まってしまふ怖さを感じました。更に悪いことには、悪い噂を聞いた後は、なんとなくその噂話の対象になった人を悪く思うようになっていました。このように噂話や先入観で、何も悪くない人

が、いじめの対象になってしまふことがあるのではないのでしょうか。自分もいつのまにか噂話に違和感を覚えなくなっていました。そんな私を救ってくれたのは、友人とトラブルがあった時の、先生のお話や道徳の授業などの積み重ねでした。私は、自分自身が噂話からの先入観で人をみてしまったことを反省し、徐々にこのようなことがあつてはならないと思うようになりました。そして、まずはこの学校から変えてやろうと思いました。

そこで、私は「一人一人がヒーローになる学校」というモットーを掲げ、生徒会長に立候補し、当選することができました。まず私と生徒会のメンバーで協力して行ったことは、人権集会です。この集会は、生徒会が主催となり、多伎中学校と隣の小学校とが一緒になって人権意識を高めていこうとする会です。私は、この人権集会で、一人一人、真剣に話し合い、お互いを尊重し合う仲間となって欲しいという願いをもって企画しました。

人権集会の内容をどのようにするのか話し合う時、まずは、多伎中学校や近隣の小学校の内でのどの

ような点が一番問題なのか考え、児童生徒にアンケートをとりました。そこで私が出した結論は「生徒一人一人の人権意識の向上の必要性」です。私は、生徒一人一人が、善悪の正しい判断ができるようになれば、自然と先ほど述べたような、根拠のない噂話もなくなっていくのではないだろうかと考えました。そのためには生徒一人一人の人権意識の向上が不可欠だろうと思ったのです。

しかし、そのためには具体的には何をすればいいのか悩んで時間だけが過ぎていき、焦燥感かられる毎日でした。そんな中、先生方や生徒会の仲間と相談して、「多伎町内小中学校人権宣言」の作成をしようという案ができました。

人権集会当日、人権宣言の案がどんな内容になるのかが気ではありませんでした。しかし、その心配は杞憂に終わり、蓋を開けてみると、みんな真剣に考え、積極的に意見を言い合っていて、とても嬉しかったのです。後日、みんなから出た様々な意見を生徒会でまとめて、「人権宣言」のかたちにしました。その際気をつけたのは、小学生にも分

かりやすい文章で表現することで  
す。完成した人権宣言は、みんなが  
納得のいくものになったと思いま  
す。また、一人一人がよりよい人間  
関係を築くにはどうしたらいいの  
か意見を出し合ったことは、意義が  
あったことだと思えます。しかし、  
それだけで満足してはいけません。  
今後は、生徒会が中心となって呼び  
かけ、みんなで人権宣言を執行して  
いこうと思えます。

確かに、この集会でいったことだ  
けでは、すぐに人権意識が高まるわ  
けではないでしょう。しかし、こう  
して中学生であっても、何が行動を  
おこしていくことが大切ではない  
でしょうか。何もしなければ、何も  
変わらない。何かをし続けていけ  
ば、少しずつ変わっていく。みんな  
が変わっていけば、世の中の痛まし  
い事件もなくなっていくと思いま  
す。私は今後、自分も含め、人々の  
人権意識が高くなるように、周囲に  
呼びかけていきたいです。そして、  
この小さな力が、やがて大きな力と  
なり、この社会に新しい風として吹  
き込まれていくことを願っていま  
す。

最優秀賞 島根県推進委員会委員長賞  
明るい未来にするために

西田小学校 六年 神田 希菜

ある日、お母さんがある本を読ん  
でいて、私は「何を読んでいるの?」  
と聞くと、「十六年前に起きた、神戸  
連続児童殺人事件の犯人両親が書  
かれた本だよ。」と言いました。この  
事件についてのくわしい内容は、と  
ても残酷すぎて私には、話してもら  
えませんでした。でも、犯人の両親  
や兄弟について話してくれました。

この事件が起きてから、家族は一緒  
に暮らすこともできず、人目をさけ  
て暮らさなければならなかったそ  
うです。このことを聞き、私はなん  
て悲しいんだろうと思いました。し  
かし、こんな残酷な事件をおかした  
子どもでも、両親にとっては大切な  
子どもだと書いてあったと聞きま  
した。そしてお母さんも同じ思いだ  
ったそうです。私は、それを聞いて  
胸がいつぱいになりました。

最近もこのような悲しい残酷な  
事件が毎日ニュースで流れていま  
す。以前は人事のようにあまり関心  
がなかったけれど、この本の話を通

いてから、今ごろ家族がどんな思  
いなんだろうと考えられるように  
なりました。この罪をおかした人  
も、罪をつぐなえば新しい生活をお  
くることができると思えます。私達  
は、そんな人を差別なく、迎えるこ  
とが大切だと思えます。それと、罪  
をおかした人の家族も笑顔で暮ら  
せるようになったらいいと思いま  
す。

しかし、どんなに月日がたって  
も、亡くなられた人達の命がもどる  
ことはありません。どんなに罪をつ  
ぐなっても、許されることはない  
と思えます。決しておかした罪を忘れ  
ることなく、生きていつてほしいと  
思います。

これから私達が、大人になったと  
きには、このような残酷で悲しい事  
件など起きないように今できる事  
は、一人で悩まず家族や友達に相談  
することだと思えます。そして、地  
域の人達とも仲良くすることも大  
事だと思えます。今、私達が安心し

て学校へ行けるのも、地域の方々が  
いつも、やさしく見守っていてくだ  
さるからだと思えます。

そして、みんなが協力し合って、  
犯罪の無い住みよい社会になるよ  
うに、一人一人が勇気を持つ事も必  
要ではないでしょうか。勇気を持っ  
て生活する事によって、今まで見て  
見ぬふりをしていた事にも向き合  
っていけると思えます。私も悪い事  
をした人にはきちんとして注意でき  
る人になりたいです。

今の日本は犯罪も増えて少し暗  
くなってきていると思うけど、世界  
から見れば、まだまだ住みよい国だ  
と思えます。この国がもっと安心し  
て暮らせるように、笑顔あふれる明  
るい未来になるように、私達が頑張  
っていききたいです。

その他の入賞者は次のとおりです。

- 島根県保護司会連合会長賞  
出雲市立浜山中学校 三年
- 大野 詩織
- 更生保護法人島根保護観察協会  
理事長賞  
出雲市立多伎中学校 三年
- 田中 優希
- 島根県BBS連盟会長賞  
出雲市立佐香小学校 六年
- 青山 海優

子どもたちの居場所づくりに関わって

## 元総長のふれ愛義塾を聴講して

保護司 石橋 敏 昭 (犯罪予防部会)



講演中の工藤 良氏

第六  
十三回  
社会を  
明るく  
する運  
動の啓

発講演会が、平成二十五年七月一日に出雲市役所一階くにびき大ホールにおいて開催されました。

同日は、講師に、NPO法人TFG(田川ふれ愛義塾)理事長の工藤良氏をお迎えしました。約二五〇人の聴衆を前に自らの体験を語り、非行の防止と更生支援を呼び掛けられました。

工藤氏は一九七七年生まれ。両親の離婚、貧困、いじめ等から小学校二年から荒れ始め、中学校二年で暴走族「極連会」に加入、十八歳で三代目総長となり、暴走行などで少年院に入院し、二十二歳の時には覚せい剤の現行犯で

逮捕されています。

同氏は、経歴からはとても想像できないほどさわやかな印象の好青年で、人はこうも変わるものかと、まず驚きました。

講演では自らの過酷な生い立ちを切々と話され、会場の一同は身につまされ領きながら聴き入っていました。生い立ちの悲惨さから、自分の居場所を暴走族に求められたのだと思います。

しかし工藤氏は、拘留所の中で自責の念から更生を決意され、苦労して二〇〇二年にボランティア団体GOKURENKAIを結成し、かつての仲間呼びかけゴミ拾いなどのボランティア活動を始められました。

自らの生い立ちやボランティア活動については、二〇〇三年「NHK青春メッセージ二〇〇三全国大会」で語り、大賞を受賞さ

れています。

その後、自分の生い立ちから、迷い苦しむ子どもたちの駆け込み寺が必要と考え、熱意を持って周囲を説得するなどして、二〇〇五年NPO法人TFG(田川ふれ愛義塾)を設立されました。この設立に至るまでの苦難についても話され、その強固な信念と行動力には感服しました。

工藤氏は、田川市暴走族離脱促進アドバイザー、田川市青少年健全育成推進員としても、保護者や問題を抱えた青少年のサポートや相談活動にも取り組んでおられます。

年齢は三十六歳と若いものの、濃い人生経験の中から体得されたものは豊富で、子どもの現状から見えてくる今の社会、情報化社会の中での問題等鋭く指摘されました。挫折を知らず全て順調に

歩む人生はそう多くはないと思いますが、我々平凡な生い立ちからでは真に感じる事ができない点もあるのではないかと思います。

また、荒れる中学校の改革を依頼され、荒れる子ども一人ひとりと真剣に向き合い忍耐強く荒れる現場を改善されたことは、表面現象だけでなく子どもの本当の気持ちや深く理解しなければならぬことと思えます。対象少年を担当する保護司として我が身に置き換え、非常に見習うべきものがあると心を打たれました。この、伝えずにはおれないような熱意ある飾りのない語り口、体験を通じた迫力ある講演に参加者一同惜しみない拍手を送りました。

保護司退任に当たって

前保護司 奈島芳江



保護司の委嘱を受けて十八年間、保護司として

の職務を終え、ここに退任の時期を迎えることになりました。

それは、保護観察所ならびに、保護司会の方々、地域の皆様方のご指導、ご支援のお陰であり、家族の理解と協力があつたればこそと、今は感謝の気持ちでいっぱいです。

保護司には、大きく分けて二つの役割がありますが、その一つは保護観察の対象となった人の指導と助言、即ち社会復帰への支援と、もう一つは、犯罪予防活動です。しかし私は、委嘱を受けてからの何年間、何をどうしたらよいのか、対象者の方ともどう接してよいのか分からず、戸惑いと不安でいっぱいでした。それは相手と同じ目

そのことが犯罪につながっていくことも多く見られます。このことを保護司として理解することが基本だと私は感じます。

次に犯罪予防活動ですが、これは主として地域の中で活動を広めていくことが必要と思います。前者が治療とするならば、このことは予防だと思えます。しかしこれは保護司だけでできることではなく、地域の皆さんと連携していくよう努力しなければいけないことではあります。

私の住んでいる四絡地区ではコミセンを中心に理解、協力していただき、ミニ集会を開いて青少年の理解に努めたり、講演会等の活動を展開することができるようになりました。そうした活動を重ねるうち、地域の方々にも分かっていたら、先般の犯罪予防活動の研修会では「今まで罪を犯した人を偏見と差別で見ている自分を反省しなければ」といった地域の方からの生の声もありました。

地域の連携が叫ばれている今日、刑を終えた人に対し「おかげで」の温かい気持ちで暮らしてい

たいと感じているところです。

また、社会を明るくする運動の一環として地元の小学生の作文を毎年読ませてもらっています。子どもが発想はすばらしく、子どもは大人をよく見ており、社会の実態も子どもの目でよくとらえていることに感心いたします。大人はよく「子どものくせに」と口にしませんが、大人こそ子どもを頭ごなしに叱ったりせず、その子のよさを認め、「誉める」ことが大切であると思えます。

外灯というのは人のためにつけるんだよな わたしはどれだけ外灯をつけられるだろうか

あいだみつを 図

私はこれから先、どれだけの「灯り」をつけられるかわかりませんが、地域の皆様と共に努力していきたいと思えます。

また、人は一人ひとり個性があり生まれ育った環境が違います。



# 出雲地区保護司会視察研修

保護司 福岡百樹 研修部会

六月十八日(火) 午前八時出雲市駅を出発し、一路香川県へ緑碧の濃淡の山中を三十三人のバス旅行となりました。車中にて自己紹介・VTR「おはようそしてありがとう」を視聴し、丸亀市中津万象園にて昼食の後、少年院の丸亀少女の家を訪れました。全国で一

万二千人が鑑別所、四〇〇〇人が少年院に在籍中で、ここには六十人定員のところ二十五人が在籍し(うち六割が大阪出身)、年齢は十四〜二十歳までとのことでした。教育については留年もあるが、新入時教育が二か月・中間期教育が六か月・出院準備教育が二・五か月あり、終了後にはそれぞれ審査もあり、新しい自分との出会い「自分自身を見きわめ、再出発しよう」との掛け声のもと指導されていました。

しかし、一番驚いたのはこの創始者が島根県の女性であったことです。津和野町出身の三原スエ氏で、昭和二十二年に「子どもをよくする会」を結成したのがもとで、翌二十三年に「少女の家」が発足したそうです。

この人は当時、村でただ一人の女学校卒業生で、縁あってこちらに嫁がれ、この子らが安心して過ごすことのできる場をつくろうとされ、現在の施設ができたそうです。中津万象園・丸亀美術館を見学の後、高松花樹海にて一泊。

九階の展望風呂からの眺めに満足して眠りにつきました。

翌十九日、バスにて第八十五番札所八栗寺に参拝。ケープルカーにて五剣山を登って参拝しましたが、寺なのに鳥居が何基もあり手水所まで備えられていました。しかし線香立ても備えられ、菩提樹の花の香りが清々しい神仏混淆のお寺さんでした。次に金刀比羅宮に参拝しましたが、あいにくの雨がポツポツと降り出した中での階段登りとなり、そのせいで参拝者が非常に少なくゆつくりとした見学ができませんでした。

下山して昼食をとり雨がだんだん強く降り出した中を、出雲の大雨を心配しつつバスに揺られて帰りました。いろいろ勉強になる良い視察研修をさせていたいただいたことに感謝して筆を置きます。



丸亀少女の家

研修参加者説明を受ける

## 更生保護功労受章者

(平成二十五年)

瑞宝双光章

井上 明男 柳樂 秦洋

法務大臣表彰

岡田 泰明

島根県知事感謝状

田坂 将

中国地方更生保護委員会委員長表彰

園山 恵子 和田智恵美  
野津 雅史

中国地方保護司連盟会長表彰

宮本 明子 周藤 千雪  
山岡 孝 和田 昌隆  
福岡 百樹 川瀬 紘一  
松村 正利 周藤 昌夫  
長子 明久

松江保護観察所長表彰

鐘築 伸正 神田修一郎  
藤田 努 横木 俊信  
加納 龍雄 延本 輝典  
安井 守 岡 賢治

島根県保護司会連合会会長表彰

内部 康正 坂根 光紀  
橘 亮秀 野津 徳男

## 保護司の異動

◎退任

奈島 芳江(大塚町)  
福岡 健文(西園町)  
田坂 将(斐川町)

(平成二十五年十一月三十日付)

◎新任

太田 祐子(大塚町)  
石飛 博雄(西園町)  
神門 保雄(斐川町)  
中尾 亮(湖陵町)

(平成二十五年十二月一日付)

〔訃報〕

保護司 齊藤正史 様

(出雲地域・塩治地区)  
平成二十五年十月十三日(ご逝去)されました。生前のご功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。

## 編集後記

「社会を明るくする運動」島根県推進委員会が主催した今年の作文コンクール最優秀賞に出雲市の森脇達希君(多伎中学校)と神田希菜さん(西田小学校)が選ばれました。お二人の受賞を心から祝福いたします。  
出雲市からは他にも多数の優秀な応募作品がありました。若い世代の皆さんが社明運動に関心を持って、堂々と意見を述べていることを大変うれしく思います。(安田公臣)